



767.6  
Ky4

# 藝術唱歌選

教育樂書編纂會編

日本音樂雜誌株式會社發行

秋夜懷友

犬童球穂 作曲

作曲者不詳

Andante

1.

一タナレ ノラゴト トモニ カキナ  
ニはしる のゆよべ てをと りかは

デ ス ミ ユ ク ツ キ ヲ メ デ シ モ イ マ  
シ ユ ク ナ ズ ま で も こ よ ひ の ま ま

ハ ニ ト スギ ツ ツ トモ マ タヒガ  
と ちかひ しもの を そのと もいま

ク ワレ ノ ミヒトリ サビシ キマド  
は うみや まとほき かなた のさと

ニ カハラ スツキヲ ナガメ ソアカ  
に なきゆ くかりを いかにかきけ

ス トワタル カリヨ オモヒ ラハコベ  
る きたら のつきよ おもか げうつせ

一、秋夜憶友

大直 華 漢作詩

一、  
 手なれの小春夫にかきなで  
 夢みゆく月をめでしも今は  
 夢とすきつ、友本遠く  
 吾れのみひとり淋しき夜に  
 幾らぬ月を眺めぞあかす  
 とわたる雁よ思ひを運べ

二、たゆたふ小舟

近藤 明 風作詩

一、  
 昔よ小舟に雲霞たよりて、  
 波の上うらうら入らばや眠りに、  
 夢草あまなし寝静らせ給はめ、  
 やすらかに眠らなれ夢よをよぬに、

三、他郷の月

中村 秋 香作詩

一、  
 よくと悦ぶ 父母の君  
 あれ地の上と かり来る妹  
 こひしき我が家にくれしや今  
 かへると見しは 夢なりけり、

二、  
 暁風の夕べ手をとりかはし  
 行く末までも今宵の儘と  
 誓ひしものを其友今は  
 海山遠き彼方の里に  
 なきゆく雁をいかにか聞ける  
 み空の月よ傳へうつけ、

二、  
 夜風吹くとも知らずよ夢ひは、  
 夢草遠きこの身は沈じも、  
 久遠なる生命は神こそたまはめ、  
 やすらかに眠らなれ夢よをよぬに、

二、  
 宵のしぐれは あとなく晴れて  
 傾く月に 雁なき渡る  
 あはれあの雁も またわがごと  
 わかれや來つる その故郷、

四、ブラームスの子守歌

堀内 教 三郎詩

一、  
 眠れよ吾兒 汝を環りて  
 美はしの花咲けは  
 眠れ今はいと安けく  
 夢草に酔ひ來るまで

五、レロレーヘンターの子守歌

近藤 明 風作詩

一、  
 眠れ眠れ母の腕に  
 眠れ眠れ母の手に  
 快よき夢草に  
 結ばすや樂し夢、

二、  
 眠れ眠れ母の腕に  
 眠れ眠れ母の手に  
 夢草を其手に  
 抱きまわして眠れやよ、

六、野 暮 後

近藤 明 風作詩

一、  
 霞は見たり野中の暮暮  
 霧らに咲けるその色愛でつ  
 あかす曉む紅雲よ野中の暮暮

二、  
 手折りて行かん野中の暮暮  
 手折らば手折れ思出ぐるに  
 君を別さん紅雲よ野中の暮暮

三、  
 霞は折らん野中の暮暮  
 手折りてあはれ霧らの色平  
 水鏡にあそむ紅雲よ野中の暮暮

二、  
 眠れよ吾兒 汝を環りて  
 天つ雲霞りたれば  
 眠れ今はいと樂しく  
 夢の國にほ、まきつ、

三、  
 眠れ眠れ母の腕に  
 一、夜夢なむて眠りて見よ  
 紅の夢草の影  
 眠れよよと夢草に、

不許複製



昭和十一年十月廿五日印刷  
昭和十一年十月三十日發行

圖書出版

定價金七圓

發行所 教育圖書出版會  
代表者 小松 耕 輔

發行所 東京都文京區根岸七丁目一番地  
目 録 三 策

印刷者 東京都文京區北新島町七十五  
帆 須 幸 多 郎

發行所 東京都文京區根岸七丁目一番地  
日本書籍雜誌株式會社  
發行所 東京九二九〇七番  
電話掛號(局)〇三三八番  
會員會號△一二三〇〇七番